

RIVER REVIVAL

Wherever the stream flows, there will be all kinds of animals and fish. The stream will make the water of the Dead Sea fresh, and wherever it flows, it will bring life.



この川がはいる所では、すべてのものが生きる。

エゼキエル 4 7 章 9 節

「聖なる吸引力」のある教会
～リバイバルチャーチとはどういうものか～ 天野弘昌師

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ナেশions・ジャパン 聖書学院 2008.5-6月号 NO.128



リバイバルチャーチとはどういうものか?

「聖なる吸引力」 のある教会

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
草加神召キリスト教会 (リバーサイドチャペル)
主任牧師 天野弘昌師

リバイバルの定義

今日は「開拓伝道～教会形成に至るまで」の内容についてお話させていただきます。まず、リバイバルの定義から始めましょう。皆さんがリバイバルという言葉聞いた時、何をイメージしますか。メディアなどで、人がたくさん集まってイエス様を信じたり、癒しを受けたりというものを多く見たりしませんか。私も神学生時代はそう思っていました。ですから、私はそういうイメージを抱きながらリバイバルのために祈っていました。しかし、それだけではないということがかなりたってから分かりました。「誰でもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造りかえられた。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」とある通り、私達一人一人が内側から変えられなければならない、すなわち、生まれ変わるというポイントに気がつきました。「世の中の価値観にどっぷり浸っていた人が、主の愛に、主イエス様の十字架の愛に心打たれ、救われ、造り変えられ、新しい命を与えられる・・・」これがある意味では、リバイバルであり、一番の原点なのです。ですから、私という一個人が救われるということは、私が本来あるべき姿に戻された、リバイブしたということです。この生まれ変わった私を通して、リバイバルの輪が広がり、リバイバルの川が流れていきます。ですから、リバイバルという言葉を使うにあたっては、そういう意味合いもあるので、必ずしも沢山の人が一斉に救われること自体がリバイバルだと限定してしまうと、日本の場合は、まだリバイバルしていないと安易に言ってしまいかねません。

キリストの体なる教会

教会が教会として真に成り立つために大切なことをエペソ1章22-23節から見てみましょう。ここでは、「教会はキリストの体」だと書いています。これはとても大事な点です。教会論でこれを見失うなら、教会はアメニティー・チャーチ化、すなわち、コミュニティーセンターのような誰もが居心地の良い場所、人が願い、人が求めるすべての必要を満たそうとする場所になってしまいます。椅子がきちんと並べられ、内装も素敵な会場、そして重々しい講壇は退けられて、教会はますます「ステージ化」していきます。又、素晴らしい賛美やオーケストラ、バンドがあって、音楽に饗宴し、人と人とが音楽のリズムや音に興奮して、激しく歌い、同時に人と人との関わりの中で仲良くしたり、ハグをしたりする・・・確かにこれらも教会の働きの一部だと思います。しかし、それが教会のすべてではありません。最も大切なのは、教会は「キリストの体」であるということです。たとえ、立派な会場やステージがなくても、フルバンドによる賛美などがなくても、「キリストの体」としての教会が存在し得ます。メガチャーチや音楽的技術の高い賛美をするような環境の中から、電気が通っていない、プロジェクターやコンピューターの操作ができない、ピアノもないというような地域に行った人が、そこでは全然賛美できないし、満たされないとしたらどうでしょう。何かがあって崇高な領域まで引き上げられるということはもちろんありますが、私達が、「教会はキリストの体」であることを忘れ、今まで培われた、又、体験してきたような教会観の中に染まってい



アフリカ ナイジェリアのリバイバル

るならそのような地域に宣教師として行った場合、やっていけなくなるでしょう。単なるカルチャーショックではなく、スピリチュアルショックを受け、「満たされない」「どうしたらよいか分からない」ということになりかねません。しかし、中国の地下教会のような所では、楽器も何もない中で、皆が手を叩いて賛美し、神様に祈り、涙を流し、満たされているわけです。その鍵は、聖霊様ご自身の「臨在」です。聖霊様がどのような働きをされながら、教会をキリストの体として建てあげているか、それがこのエペソ1章23節です。「いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」教会はキリストご自身、聖霊様ご自身が満ち溢れている所だということです。楽器がなくても、神様の臨在の中に浸って、満たされることがなければ、どれほど聖書を学んで訓練を受けたとしても、そのような宣教地に行ったら役に立たなくなる可能性もあります。

聖なる吸引力のある教会

なぜこのようなことを言っているかといいますと、「教会」という意識が大切だからです。私はかなり大きな教会から開拓伝道者として派遣されましたが、何もないところから始まりました。母教会にあったようなパイプオルガンやピアノはありませんでした。与えられたのは、小さな鍵盤だけ。それで満たされようとしても、無理なのです。それで、どうしたらよいでしょうかと、神様にひれ伏し祈った時、神様は、「それが教会のすべてではない。むしろわたしが臨在する場所にするように。わたしがいつもそこを愛してわたしの目と耳と心とがいつもそこにあり、あなたのささげる祈りをことごとくかなえる場所にしなさい。」と語られました。その時から私が目指したのが、「聖なる吸引力」のある教会でした。その場所に入ったら、もうじっとしてい

れないような主の臨在、主の油注ぎにあふれ、「あぁ、ここに神様がいらっしゃる。」とひれ伏してしまうような教会です。リバイバルが起こっている世界の諸教会に旅行に行ったとき、神様が豊かに恵んで祝福されている教会にはそれぞれの特徴があることが分かりました。しかし、共通している特徴は、明確な「主の臨在」でした。どうしたらそのような確かな主の臨在が与えられるのかと思いました。そして、考えた末に私が行き着いたのは、「早天祈祷と断食の祈り」でした。みなさんにこれをしてくださいと言っているわけではありません。しかし、そのように示された私は開拓期、これに徹しました。伝道する前に、又、伝道以上にしたのはこれでした。本当に真剣に祈りました。「天の窓を開いて、あなたの聖霊のすばらしい油を注いでください。終わりの時代の後の雨、恵みの雨を降り注いで下さい。ここはこんなに狭くて小さい場所で、楽器もありません。でも、あなたの臨在があるならば、主がここに生きて働いておられる、こここそ教会だと誰もがわかるようにしてください。」と真剣に祈りました。そのように祈っていると、ある方が早天に来始めました。「主に導かれて来ました。『この教会のためにささげなさい。もし、あなたがささげるならば、あなたに30倍、60倍、100倍の祝福を与えよう。』という神様の声を聞いたので、ささげざるを得なくてささげに来ました。」と言って、100万円の束を差し出されたのです。皆さん、これは経済的な祝福ではありません。主の臨在があふれ始めると、次々と人が来るようになりました。私にとってその始まりは、金魚のよみがえりという体験からでした。金魚が生き返って、小さな男の子が、「あぁ、イエス様生きて働かれるんだ。」と信じて救われました。その男の子は成長して、今は開拓伝道者として働いています。また教会のある人が、「隣りの人が広い土地を持っているにも拘らず、いやがらせで私達の家に影

ができるようすぐそばに二階建てを建てようとしている。」と、腹を立てながら教会に来ました。そして、私達はその人と一緒に祈りました。それまで、その人のご主人はずっと平屋の家を建てようとしていました。しかし、私達が祈った後、そのご主人は、「5階のビルを建てよう。」と言ったそうです。あれほど頑なに平屋をとっていたご主人が、「5階建てのビルを建てる」と言って、計画を進めていました。すると、今度はその隣りの人が2階建ての計画をやめました。それで、全部うまくいきました。開拓教会は、トラクトや教会案内など一枚一枚配りますよね。もちろん私もそれをしました。しかし、東京辺りでは一万枚まいても一人しか来ませんし、特別伝道集会を開いても、本当にわずかな人しか来ません。自分から来た人は、明らかに神様が選んで導かれた人なので、教会の将来に計画と目的を持った人が来るのです。

己が好むところに吹く聖霊様

神様が生きて働かれると、私達の理解を超えたすばらしい御業をなしていただけます。ですから私達は期待するし、祈ることも楽しみになり、喜びとなります。そして、いつも神様が応えてくださることに感謝することを教会員に教えます。みんなが感謝をささげると、神様は喜んでくださり、次々と祝福してくださるようになります。ですから、先ほどの「吸引力」という言葉がふさわしいかどうかは分かりませんが、教会は、磁石が砂鉄を引き寄せるように、神様が人を引き寄せ、集めていくような、霊的な神の臨在される場所になるかどうかということが大きなポイントになります。

私は様々な教会に奉仕に行きますが、この聖書学院に来た時には物凄い臨在を覚えました。ここはどれだけ祈り込まれているか、どれだけ聖霊ご自身が喜んでおられるかと感動しました。聖霊様は、「己が好むところに吹く」といわれているお方です。聖霊様は御人格（御神格）を持っておられます。御人格を持っておられるとは、好みがある、好き嫌いがあるということです。聖霊様はいつでもどこにでもいらっしゃいますが、働かれるかどうかは、ご自身の好みによります。どういう所に好んで吹くかという、聖い所です。聖霊様は聖いお方だからです。ですから、その場所が聖さを湛え、神様を称えて、へりくだり、この地の癒しのため、悔い改めのために祈っていくならば、神様がそこを浄化して下さいますね。聖霊様が降られて、臨在があふれてきます。私はかつて多摩川によく釣りに行っていました。以前はとても汚い川でしたが、最近では四万十川に次ぐ清流になりました。魚達も戻

ってきて、今では52種類にもなっているそうです。500万匹の鮎もいます。清流になると、魚達がリバイブしてきます。エゼキエル47章で、神殿の川が流れるところには、「あらゆる生物が生きる」とあります。そのように、あらゆる種類の人々が教会に引き寄せられてきます。これが全世界のリバイブしている教会の共通項です。

聖霊の器

一番の中心的なポイントは、「あなたがどれだけ聖霊様と親しい関係を築くかどうか」です。この関係があると、聖霊様は御人格を持っていますから、放っておけないのです。いいですか。聖霊様のほうが一方的に働かれるのですよ。私は、かつて、いろんなリバイバルリストを追いかけしていました。そして、このリバイバルリストはなぜリバイバルを導いたり、火をつけて燃え上がらせたりするのか、と書いていたのですが、ある時、彼らは、聖霊様の器なのだ気づきました。あるビデオで見たのは、牧師が聖書を開いて、ある聖書箇所を朗読しているだけで、天使の声が響くのです。その先生が聖書を読んでいるだけで、天使の賛美が響きわたって、働き始めるのです。そして天使が次々と一人一人の上に油を注ぐという状況になります。その先生がまだメッセージをしていないのに、聖霊様が一人一人の必要に応え始めていくのです。ある人は悔い改めに、ある人は霊的な傷の解放のために取り扱われ、ある人は主のために献身しよう、と促されていきます。すばらしいですね。人間の能力は本当にわずか、その力には限界があります。もちろん、人として一生懸命やることは大切です。思いを尽くし、力を尽くし、精神を尽くして主なる神を愛し、隣り人を自分のごとく愛していきます。又、私達が主の奉仕を忠実にするのは、本当に大事なことです。しかし、それ以上に、私達が「通り良き管であるかどうか」ということを神様は求めておられます。聖霊様が好んで吹いてくださるような器になるということ。聖い器、謙遜な器になること。聖霊様は、へりくだるものの上に豊かに働いて川のように流れていきます。川が上から下に流れるように、聖霊様は、へりくだった器を通して流れていくわけです。傲慢になったり、肉の思いや力が持ち上がってくると、聖霊様の流れをダムのように止めてしまいます。その流れが止まると、人々は神様の愛も恵みも祝福も感じなくなってきて、教会から離れ始めていきます。ある程度成長した教会で人の数が減っていくと、牧師には人間的な焦りが出てきます。人々を人間的に縛ろうとし、「他の教会に行ってはいけません」「何々してはいけ

ない、しなければならない」と人間的な圧力を、意識的・無意識的にかけ始めるのです。そうすると、教会は段々とカルト化していきます。宗教学的・律法的なものになってしまい、教会生活は義務的になり、又は、教会に行かなくなったら怒られるし、怖いから…となってしまいます。そして人々は疲れ果てて、礼拝の中でも死んだ状態、眠った状態になります。このような教会は実際にあるのです。

豊かな実を結ぶために

このような状態に陥らないために、私達一人一人がいつもへりくだり、聖霊様と親しい関係と環境を保つ必要があります。絶えず心砕かれ、神様の前に、「神様、あなたにしかこの働きはできません。この働きは肉によって始めたのではなく、御霊によって始められたのですから、御霊によって仕上げられなければなりません。聖霊様、あなたと共に働く器にしてください。」

という祈りを生涯続けていくことです。こうして私達は、聖霊様に用いられやすい聖い器として、通り良き管として神様と共に働き、豊かな実を結んでいくのです。

この後の講義では、これらのことを踏まえて、「では、日本はどのようにしたらリバイバルしていくのか」という本論に入りたいと思います。リバイバル教会、又、聖書的な初代教会を作り上げるために、私の講義を役立ててくだされば幸いです。

●天野師の全講義は録音・録画されています。購入ご希望の方は、学院事務局までお申込ください。

・CD 500円(1時間)/全7時間

・DVD 800円(1時間)/全7時間

学院顧問会、アメリカで開かれる!

■去る4月24日、創設者グリコ夫妻の長年の念願であったCFNJの日本側の顧問と、アメリカ側の顧問が一同に会する顧問会がダラスで行われました。日本からはご多忙の中、奥山実御夫妻と稲福エルマ師、米村英二御夫妻が参加してくださいました。以下はチャールズ・グリコ師のレポートです。



■クライスト・フォー・ザ・ネイションズでの礼拝のとき

CFNJ(日本)の覆いであるアジアキリスト福音宣教会(CFAEF)の顧問の先生方は、CFNIの宣教週間(ミッション・ウィーク)で講義の依頼を受け、それぞれのクラスでご奉仕してくださいました。以下の写真は、奥山実師、稲福エルマ師、米村英二師が牧師・リーダーコース(ALPS)、世界宣教コース、児童伝道コースで教えておられる様子です。CFNI(ダラス)の学生や顧問の先生方は、日本から先生方が来られたことを非常に喜んでおられました。また、この訪問は、日本の顧問の先生方にとってもCFNJ(日本)の「母校」を間近で見て、体験される良い機会となり、又、CFNI(ダラス)のリーダー達との親交も深められ、聖霊様の力強いご臨在と

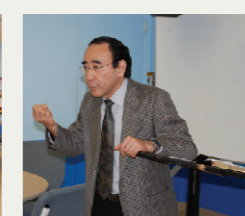
御力が、CFNIの1,000人の学生達に働いておられることを実感される時ともなりました。先生方は特に、賛美礼拝のすばらしさ、そして、50カ国からの学生がキリストにある兄弟姉妹として一つになっていることに感動しておられました。CFNJ(日本)はCFNI(ダラス)の公認の提携校であることを光栄に思います。CFNI(ダラス)で学びたいと願う方や、米大学の単位を取りたいと願う方は、CFNI(ダラス)の流れを受けている賛美礼拝や学び、学生生活を体験するためにも、又、CFNJ(日本)からCFNI(ダラス)に編入するために単位を持ち越すためにも、まず、CFNJ(日本)で少なくとも1年は学ばれることを心からお勧めします。



■世界宣教コースで語られる奥山師



■児童伝道コースでメッセージをする米村師



■児童伝道コースで語る稲福師



■アメリカの顧問との記念写真

新入生の ごあいさつ

2008度4月入学



木村 聖士 (北海道・一般コース)

■CFNJ 聖書学院に入学できて感謝です。神の国とその義とをまず第一に求めます。主を誉めたたえます。



増田 成遂 (神奈川県・一般コース)

■素晴らしい神様を褒め称えます。なぜ僕がこの学院に入ったのかというと、まだ僕も分かりません。ただこの学院の資料やHPを見ていたら平安があったという事それだけです。「あなたの道を主に委ねよ 主に信頼せよ 主が成し遂げてくださる」(詩篇37:5) この御言葉のように人生を歩んで生きたいと思えます。宜しくお願いします



滝沢 真一 (群馬県・一般コース)

■この学院に導いて下さった神様と、祈りによって支えてくれた神戸・北海道の皆様にご心より感謝します。キリストの香りプンプンの器になるべく、神様とべったり交わって行きたいと思えます。宜しくお願いします！

(パウロ)



富吉 巴右路 (沖縄県・一般コース)

■はいさい!(こんにちわ) いつも感謝感激の日々です。聖霊さまとの豊かな交わりをもち、兄弟姉妹の方々と多くの事を学び、多くの人々に神様の恵みを伝えたいです。



長谷川 雄一 (北海道・一般コース)

■ここまでこれた事を、主と支えてくれた方々、今までの全てのことに感謝します。これからは、学ぶべき事を学んでいきたいと思えます。

桑原 里華 (兵庫県・CMPコース)

■神様はこれまで、驚くべき方法で私を導いて下さいました。これからもどんな冒険に案内して下さいませんか楽しみます!いつも主と共に、主の栄光を映す鏡になりたいです。これまで支え励まして下さった全ての方に、感謝です!



棟安 絵里子 (兵庫県・CMPコース)

■北海道に来る途中、神さまはイザヤ書55:8~13を通してこう語られました。「雨や雪が地を潤し実をならせるように、あなたを御言葉で潤し必ずあなたを果せよう。」神さまに大きな期待を持って学びたいです。



吉岡 みゆき (熊本県・CMPコース)

■ハレルヤ、主に感謝します。一年間、CMPクラスで学ぶ事ができます。この一年の間で、信仰を強いものにされ神に用いられる器として相応しい人間になれるように精一杯がんばります!



新井田 路子 (北海道・一般コース)

■どんな時もいつも共にいて慰め助け、平安と喜びで満たして下さいる神様に、心から感謝しています。素晴らしい御臨在の中で賛美し学び、神様が用いて下さるその時の為に、頂いた賜物を磨き備えていきたいです。



本野 真理 (北海道・一般コース)

■学院で学べる期間を与えてくれた神さまと理解してくれた親に感謝します。神さまが喜んでくれる道を歩んでいきたいです。神さまからもらい逃しがないように沢山幸せと愛をもらいたいです。



山内 愛 (熊本県・CMPコース)

■神様の導きでCFNJに入学できたことを感謝します。これからの一年CMPコースで御言葉を学び、自分自身と向き合い、神様との関係を確かなものにしていきたいと願っています。



進級生の ごあいさつ

- ALPSコース
- CMPコース
- 一般コース



富岡 秀元 (北海道・ALPSコース)

■この度、恵みにより一般コースを卒業し、ALPSコースに入学しました。この一年、ほんとうに主に期待しています。よろしくお願いします。



外山 敏行 (北海道・ALPSコース)

■神様がここまで、守り導き、ALPSに進ませて下さいました。本当に感謝ですし、嬉しいです。学院に入学し、多くのことを学び、また、多くの人達に出会った全て、神の導きと恵みです。この一年も楽しみです。



伊江留津美 (沖縄県・ALPSコース)

■ハレルヤ!はじめに、二年間あらゆる面にて支えて下さった方々一人一人に、心から感謝申し上げます。三年目は、愛なる主の御思いのままに生きていける僕を目指し、人知を超えた主を慕い求めつつ歩みたいと思えます。栄光在主。

大久保 旨子 (青森県・CMPコース)

■ここまで祈り支えて下さった方々に感謝します。二年間の学びが終わり、いよいよ最後の三年目です。主の働き人としてさらに砕かれ、練られ、聖められ、毎日喜びと感謝と祈りに満ちた献身者になりたいです。



グドール愛里子 (北海道・CMPコース)

■卒業を本気で考え昨年度のニュースレターで飛び立つと私は書きましたが、神様の導きによりCMPコースに編入しました。このことにおいて神様が私に何を望んでいるのか、期待に胸を膨らませていきます。全てにおいて、主に賛美!



笹山 麻衣 (北海道・CMPコース)

■CMPコースで子どものように素直になり、授業を受けたいと思えます。沢山の素晴らしいものが与えられると確信しています。支えて下さる神様、人々に感謝です。ハレルヤ!



和田 ナオコ (神奈川県・一般コース)

■ハレルヤ!~!思いがけず、もう一年間学べる恵みにあずかりました。神様と祈り支えて下さっている全ての方に感謝します。一人の魂に愛を伝えるために、キリストの愛をもっと知り、満たされたいです。



2008年度の新たなスタート! 新入生11名 入学式



■去る4月14日(月)特別ゲストに天野弘昌師をお招きして、2008年度の入学式が行われました。神様は私たちの祈りに答えて下さって、今年も新たに11名の新入生を与えて下さいました。また2年コースを卒業した3人の兄弟姉妹が新たにALPSコースに進み、CMPコースを修了した学生が一般コースに、一般コースを修了した学生がCMPコースに進級するなど、在校生と合わせて31名、聴講生2名を入れると計33名の学生が2008年度をスタートすることが出来ました。ハレルヤ!主に感謝!新たな歩みを始めたこれらの学生たちのためにお祈りくだされば幸いです。



■ゲストの天野師のメッセージに真剣に聞き入る、新入生、進級生達。



●6月2日(月)~6日(金)
アダム・マッケイン師

アメリカ CFNJ聖書学院学院長・
グローバル・コース・ネット代表

- 1・2時間目 (全体授業)
- 6日~8日迄、YFNゲスト



●6月2日(月)~6日(金)
ジャレット・ブライアント師

グローバル・コース・ネット宣教師

- 3時間目 (アルブスコース授業)
- 6日~8日迄、YFNゲスト



●6月12日(木)
滝元 明師

全日本リバイバル主幹。いつでも
どこでも神の国の御言葉を大
胆に語る「愛と熱血の伝道者」

- 1・2時間目 (全体授業)

●ゲスト講師の授業は、聴講は無料(席上献
金あり)ですが、アルブスコースとCMPコ
ースは有料となります。詳しくは事務局までお
問い合わせください。

2008年1学期 ゲストスピーカー のご案内



●6月12日(木)
ロン・ブラウン師

スティービー・ワンダー、ホイ
ットニー・ヒューストンら、世
界のトップアーティストをサポ
ートする一流サクソプレイヤー。

- 3時間目 (全体授業)



●6月17日(火)
ヴァーナー・ギット師

教授・博士 1937年ドイツ生ま
れ。ドイツ連邦物理学・科学技
術研究所の教授兼所長を務める。
「情報科学」の分野における世
界的権威。世界各地で「信仰と
科学」という主題の講演会を開
いてきた。邦訳「初めに情報あ
りき」。

- 1・2時間目 (全体授業)



●6月23日(月)~27日(金)
ロドルフォ・ガルサ師

メキシコ アミスタ・デ・モント
レ牧師。前CFNJ聖書学院長。

- 3時間目 (全体授業)

ゴスペルコンサート

6月12日(木) 開場/午後6:30分
開演/午後7時~

- 音楽ゲスト/ロン・ブラウン・マキーダ
- メッセンジャー/滝元明 ロン・ブラウン



生まれ変わったアーティスト達が伝えたい音楽。そ
れはゴスペルです。ジャズゴスペル、クラシカルゴ
スペル、ワーシップゴスペル。そして、世界のベスト
セラー「聖書」が語るゴスペル。

- 会場/CFNJ聖書学院
- 入場料/1,000円



ゴスペル・ソウルの女王と呼ばれる実力派R&Bシンガ
ー。エリック・ベネイ、モーメンツ、フランキー・ビヴァ
リー&メイス、エリカ・バドゥらのステージに参加。



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

- HP:www.cfnj.com 郵便振替:02780-4-4688
- e-mail:office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

